

FUTURE DESIGN 2023  
特別報告④

## 長野県のソーシャルワーカーによる フューチャー・デザイン・ワークショップの展開

信州大学経済学部  
井上信宏



2024年 9月 15日  
@Webinar

## 応用経済学科 コミュニティヘルスの地域づくり・関係づくりから 持続可能な社会システムを考える

研究室が挑む社会問題のひとつは「健康寿命を延ばし、高齢者の孤独死を防ぐにはどうすればよいか」。私たちは、この問題の解決方法のひとつとして「つながり笑顔がある地域づくり・関係づくり」を研究しています。

「誰もが、住み慣れた家で、地域で、自分らしく安心して暮らしていること」は、私たちが望んでいるふつうの幸せです。しかし今の私たちは、ふつうの幸せを達成するのが難しい時代を生きています。その背景にあるのが人口減少と少子高齢化の同時進行です。

ふつうの幸せを保障するしくみのひとつが「社会保障」です。しかし経済成長と人口増加を背景に作られたしくみのために、この社会問題を根本から解決できません。私たちはコミュニティヘルスを手がかりに、この問題の解決方法を探っています。



井上 信宏 教授

1998年3月に東京大学大学院経済学研究科を修了、同年4月に信州大学経済学部に着任。2011年9月から教授。専攻は社会政策、社会調査。現在、コミュニティヘルスに注目して、人口減少・高齢社会における持続可能な地域づくり・関係づくりを研究している。

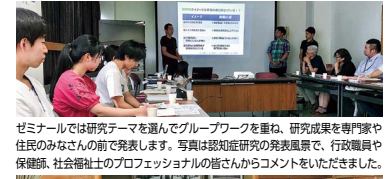
### 研究の未来と卒業後の将来像

私たちの研究の軸足は「社会政策」と「社会調査」にあります。社会政策とは、個人だけでは解決できない社会問題を解決するための公共政策です。社会保障、社会福祉、健康政策、生活問題、地域づくり、教育、ジェンダー、労働などのテーマ群から成り立っており、高齢社会問題、格差社会と貧困問題、健康格差、各世代の生きづらさなど、現代的な社会問題の解決を図るための政策科学です。

研究室（ゼミナール）では、社会政策の考え方を身につけ、解決すべき社会問題を選び出し、その問題の背景を社会調査の手法で科学的に分析し、解決に向けた政策提言を導き出す研究をしています。

「私たちが注目するコミュニティヘルスとは「自分で生き方を選ぶ自由が認められている」社会関係のなかで、「客観的にも認められる健康な状態で生活を送る」ことができる地域社会を創り出すことにあります。

研究室の卒業生は、市町村自治体の職員、NPOの職員として、政策提言に向けた基礎調査や地域づくりに主体的に取り組む仕事に就くことが期待されています。



ゼミナールでは研究テーマを選んでグループワークを重ね、研究成果を専門家や住民のみなさんの前で発表します。写真は認知症研究の発表風景で、行政職員や保健師、社会福祉士のプロフェッショナルの皆さんからコメントをいただきました。



研究成果を社会実装することもゼミナールの研究のひとつです。理論で得られた成果をわかりやすく地域活動に活かす作業は、研究同様に大切なプロセスです。写真は松本県北地区の高齢者サロンの場を借りてクリスマス会を企画・運営したときのものです。

### 主な研究事例

2015年から信州大学経済学部がある長野県松本市と協力して、「つながり笑顔がある地域づくり」の実践研究を重ねてきました。これは、住民の生活圏に行政職員や医療・介護・福祉の専門職、地域住民と協働で「地域包括ケア」と言われるコミュニティヘルスのある地域社会を創設する取り組みです。この取り組みには、研究室の学生も参加しています。

現在では、長野県下の自治体の協力を得て、未来人の視点で持続可能な社会システムを創り出す「フューチャー・デザイン」を社会実装するための研究をスタートしました。

### 関連する公刊論文

- 井上信宏（2023）「高齢者の〈生活〉を見つめる「わがことワーク」の実践」『看護教育』64-1、医学書院。
- 武者忠彦・井上信宏・西村直子・増原宏明（2021）「中山間地域におけるコミュニティの再編をめぐる課題：長野県佐久穂町における住民自治と環境保全の観点から」『信州大学経済論集』（11）。
- 井上信宏（2021）「最期まで自分らしい生き方をするためには：課題と方向性」『DIO』2021年9月号（連合総研）。
- 井上信宏（2021）「フューチャー・デザインで考えるあんしん未来の創造（長野県あんしん未来創造フォーラム 講演／2021年3月5日）」→『長野県あんしん未来創造フォーラム ダイジェスト』（令和2年度 まいさばレター特別号Vol.6／長野県社会福祉協議会／2021年7月）所収。
- 高木宏明・井上信宏・原田正樹（2020）「共に生きる、支えるとは…（コソ研2020・2日目 シンポジウム／2020年8月27日）」→『コミュニティにおけるソーシャルワーク強化研修・長野2020 ダイジェスト』（令和2年度 まいさばレター特別号Vol.5／長野県社会福祉協議会／2020年12月）所収。
- Naoko Nishimura, Nobuhiro Inoue, Hiroaki Masuhara and Tadahiko Musha（2020）Impact of Future Design on Workshop Participants' Time Preferences. *Sustainability*,12(18):1-25.
- 西村直子・井上信宏・武者忠彦・増原宏明・山沖義和（2020）「長野県松本市におけるフューチャー・デザインの研究と実践」信州大学経済学部 Staff Paper Series 19-01.
- 西村直子・井上信宏・武者忠彦（2018）「未来人を呼び寄せる討議デザイン」（共著）『学術の動向』2018年6月号（23-6）。

## フューチャー・デザイン&ソーシャルワーク研究会

2021年5月～

中島 将	（長野県社会福祉協議会）	佐藤もも子	（東御市社会福祉協議会）
市原綾子	（長野県介護福祉士会）	古畑直樹	（塩尻市社会福祉協議会）
新美亮介	（伊那市社会福祉協議会）	山田翔太	（御代田町社会福祉協議会）
柴田裕美	（諏訪市社会福祉協議会）	西澤智美	（長野県社会福祉協議会）
松崎奈江	（みらいさい福祉会）	下倉亮一	（長野県長寿社会開発センター）
阪本博美	（つつじヶ丘学園）	小澤悠維	（NPO法人アルウィズ）
羽生浩子	（まつもと医療センター）		
井上信宏	（信州大学学術研究院（社会科学））		コアメンバー14名

本報告の一部は、フューチャー・デザイン&ソーシャルワーク研究会の社会実践に基づいています。



県下のソーシャルワーカーが参加

将来世代を体験した  
自分の担当地域で開催が

## 社会実践と研究推進のつながり

### プラットフォームとなるFDWS

- 長野県社会福祉協議会と信州大学経済学部の連携協定
- 研究者とソーシャルワーカーが実践研究組織を組み、社会実装に向けた共同研究を継続。
- 長野県社会福祉協議会がプラットフォームとなるFDWSを定期的・継続的に開催。FD体験者を増やす。
- FDWSに参加した各地のソーシャルワーカーが、自分の担当地域でFDWSを開催。

### 長野県をフィールドとする2つのプラットフォーム

- **フューチャー・デザイン & ソーシャルワーク研究会**  
研究会メンバー中心（コアメンバー）/隔月開催
- **ソーシャルワーク × フューチャー・デザイン・ワークショップ**  
長野県下のソーシャルワーカー対象/年1回・2日間開催

### 自治体・地域ごとのFDWS

- 地域福祉計画、地域福祉活動計画の策定
- 住民自治協議会等での地域づくり計画の策定
- 地域包括支援センター等による地域ケア会議
- 社会福祉協議会や地域包括支援センターでの事業計画策定や研修活動

### FDWS研究

- プラットフォームでのデータ収集と「将来信州SW」のデザイン
- プラットフォームFDWSの構造化
- ソーシャルワーカーが担当地域で気軽に実施可能なFDWSのツール開発・マニュアルづくり

## ソーシャルワーク × フューチャー・デザインの意義

### ソーシャルワークとは：

- ◆ 福祉や医療の現場で、生きづらさ（悩みや課題）を抱える人を支援すること
- ◆ 予防の観点から、生活の場で、自助や互助のベースとなる人のつながりや社会関係の構築を支援すること
- ◆ 人/地域/自治体/国家といった当事者を含む社会システムの変革を行うこと  
⇒ 社会福祉、地域福祉の現場で働く専門職をソーシャルワーカーと言う

### ソーシャルワーク × フューチャー・デザインの意義：

- ◆ 2つのプラットフォーム（①フューチャー・デザイン&ソーシャルワーク研究会 ②ソーシャルワーク×フューチャー・デザイン・ワークショップ）を通じた学び合いの場の創出
- ◆ コアメンバーや協力するソーシャルワーカーとの学び合いを通して、ソーシャルワークの課題やフューチャー・デザインの目的を共有
- ◆ 学び合いのプロセスを通じて獲得されるフューチャー・デザイン・ワークショップのデザインやノウハウ
- ◆ 各地の取り組みは、それぞれの地域特性や課題のあり方に応じて、多様なアプローチを工夫する

## ソーシャルワーカーが直面している課題

### 【ソーシャルワーカーの疲弊と限界】

- 地域のソーシャルワーク実践の現場では、**生活に困難を抱え、多様な支援を必要とする人々が顕在化**しています。
- ソーシャルワーカーは目の前の相談者の生活課題に寄り添って支援を続けますが、**一向に解決が望めない事例も散見**されています。
- 社会保障制度の不備や社会福祉のサービス不足が明らかで、増加の一途をたどる相談が重くのしかかり、働く環境が整わない（支援者支援や保障が薄い）ソーシャルワーカーに大きな負荷がかかり、**終わりのない伴走支援に各現場は疲弊し、ワーカー自身が、未来を感じることが出来ない現実**があります。
- また、ソーシャルワーカーの視点として、喫緊の課題解決に追われることから、**生活者や生活者を取り巻く地域社会へのまなざしが、ときとして弱く、狭まってしま**うことがあります。

### 【ミクロとメゾ実践の乖離】

- 一方、従来、社会福祉協議会が中心となって行ってきた、**地域組織など住民主体の地域福祉や地域づくりの実践に対する地域支援と、生活困窮者自立支援事業に代表される個別支援が、現場レベルで統合されず、未だ、ソーシャルワークの“両輪の働き”**になっているとは言いがたいところです。
- 多くの現場では、**メゾ支援とミクロ支援が乖離**してしまい、効果的/効率的なソーシャルワーク実践まで到達できていないと言いがたい状況にあります。

〔注〕「フューチャー・デザインとソーシャルワーク研究会の今後の展開（案）」（文責 佐藤もも子・中島将；未定稿；2022年9月）より。一部改訂した。

## ソーシャルワーク × フューチャー・デザイン：その目的は？

### 【フューチャー・デザインへの期待】

- フューチャー・デザインの視点と手法を持ってソーシャルワークを考えることは、個別世帯の複合課題に相対するなかで、事象に対する即時解決のみをその使命と認識し、課題が生み出される地域や社会背景にまで視野が及ばないことになりがちな**ソーシャルワーカーの近視眼性を払拭し、地域の住民や事業所など地域社会を形づくる人々との協働に向けて今までとは違う考え方や取り組みを導入し、建設的な姿勢や思考を獲得**することが出来るのではないかと期待を抱きます。

### 【フューチャー・デザインがもたらすソーシャルワーク実践の変革】

- フューチャー・デザインの思考が**ソーシャルワークの新たな捉え方を示唆し、現場のソーシャルワーカーの実践にも変化をもたら**し、それが一人ひとりのクライアントにとっても有効に機能するのではないかと考えます。よって、フューチャー・デザインをソーシャルワーク現場とソーシャルワーク人材の育成に導入し、フューチャー・デザインで考えるソーシャルワークと地域づくりについて研究を進め、社会実装に向けて取り組むこととしたいと考えます。

### 【目指すゴール】

- ソーシャルワーカーの**近視眼的になりがちな実践へのまなざしを、時間と空間の両面から俯瞰的に捉えられるよう**に変化を促す。
- 従来型の地域福祉実践（コミュニティーワーク、コミュニティーソーシャルワーク等）と個別支援（伴走型支援等）を統合し、**新たなソーシャルワーク理論**を長野県から生み出す。
- 現在の社会福祉制度、社会保障制度の不備に、ソーシャルワーカーや所属する機関が気づき、**将来世代の意向を反映したソーシャルアクション機能**を新たに獲得する。

〔注〕「フューチャー・デザインとソーシャルワーク研究会の今後の展開（案）」（文責 佐藤もも子・中島将；未定稿；2022年9月）より。一部改訂した。

## フューチャー・デザイン Future Design

持続可能な未来を創造するために  
現代世代  
今の私たちが何をすべきかを考える

何を引き継ぐか

継承

何を創り出すか

創造

何を手放すか

解放

## 3つの取り組みから獲得できた成果（仮説として）

### 成果1

#### ワークショップの継続効果：

フューチャー・デザイン・ワークショップが、6ヶ月後の参加者の意識に影響を及ぼし続けている。

### 成果2

#### 現代世代と将来世代の対比：

フューチャー・デザイン・ワークショップで、将来世代を考慮した福祉計画が、より具体的でかつ実現性が高い。

### 成果3

#### 持続可能な住民主体の地域づくり：

フューチャー・デザイン・ワークショップを通じて、世代を超えた住民同士の対話が成立し、自助や互助の礎となる地域の集会的意識を育む。

## 社会福祉・地域福祉に対するフューチャー・デザインの可能性

### FDの 多様性

3つの成果を生み出した取り組みは、それぞれ異なる問題意識や方法を持ちながらも、共通して将来世代の視点を持つことで、持続可能な地域づくりを考えることに成功している。FDが、いかに地域のニーズに合わせて柔軟に適用できるかが示されていると言えないか？

### FDの 拡張性

3つの成果を生み出した取り組みは、長野県のソーシャルワーカーによるFDの社会実践例であり、今後は、他の地域や政策領域、あるいは地域づくりにも展開可能なモデルケースとして位置づけられないか。これがまさにFDの本質であり、持続可能な将来を意識する行動は、現代世代に具体的な行動変容をもたらす可能性があると言えないか？

## 長野県のソーシャルワーカーによるフューチャー・デザイン・ワークショップの展開

井上信宏

信州大学学術研究院（社会科学系）

〒390-8621 長野県 松本市 旭 3-1-1

信州大学経法学部 研究棟 409研究室

E-Mail: inoue@shinshu-u.ac.jp

※ 本資料は未定稿となります。特に、図画等の二次利用につきましてはご遠慮ください。